

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110413994		
法人名	医療法人 福和会		
事業所名	グループホーム 青空		
所在地	〒006-0841 札幌市手稲区曙11条2丁目3番13号		
自己評価作成日	令和5年11月1日	評価結果市町村受理日	令和5年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0110413994-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人福和会の敷地内にグループホーム 青空があります。札幌立花病院、ケアハウスに隣接し渡り廊下でむすばれています。医療と連携して安心安全にグループホームの生活を送ることができています。

施設の理念 1.ゆっくり 2.いっしょに 3.楽しい暮らしを目標に笑顔で優しい介護を実践しています。施設に面している広い中庭は季節の花や樹木が茂り、お天気の日には毎日の散歩が楽しみとなっています。健康維持のため毎日体操の時間と午前午後にはレクリエーション活動を行っています。入居者のお誕生日会や、春には節分、ひな祭り、畑作業、バスレクリエーション。夏にはサクラボ狩り、秋には収穫祭、冬はクリスマス会などの季節ごとのイベントを計画して楽しんで頂いています。専属栄養士献立による毎日の美味しい食事は「ご飯が楽しみ」と、好評をいただいています。入居者様が今持てる能力を保ちながら、潜在能力の引き出し活性化にも職員一同で関わり、明るく楽しく落ち着いた生活が続いていかれますように支援させていただいています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

手稲山を望む自然豊かな環境に囲まれた広大な敷地内にある開設23年目の事業所である。鉄筋コンクリート4階建て1階に位置し、札幌立花病院、ケアハウス、グループホーム朝風とは全て渡り廊下でつながっている。中庭に面しており、その通路はロードヒーティングにより冬でも安全に利用できるため、1年を通して外の空気や季節を感じることができる。内部はパステルカラーでアイランドキッチンを設備し廊下にも3か所の木のベンチを配置するなど生活環境の居心地良さが窺える。幼稚園児による遊戯等の披露や神事子ども神輿が来訪し、利用者の心が弾む地域交流の再開がなされている。医療的見地による初期アセスメントに優れ、聴力・視力状態やこれまでの投薬の見極めにより、眼の手術や薬の低減などから本人の生活の質が飛躍的に向上した事例が多い。動かす同じ場所で寝てばかりいた利用者が歩行器で好きな場所へ移動し歌も歌えるようになったり、ベッド上にて排便であった方では、車椅子から歩行器へ、そして24時間トイレで排泄が可能となっている。職員が考案する豊富な脳トレーニングやレクリエーション、運動、畑作業や外出、毎日の茶話会など、利用者個々の状態像に即した心温まる支援により生活の再構築と活性を担保している。ケアハウスの囲碁や麻雀に毎週出かける方や職員手作りの食事が楽しみと、自ら早々に着席する利用者もいる。認知症介護の専門家として、根気良く、利用者の言葉を傾聴・受容し、介護支援に臨んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念、介護理念があります。ゆっくり、いっしょに、楽しい暮らしを目標として利用者の健康と心のケア、ご家族の心身の緩和に努め職員一同日々取り組んでいます。理念は玄関ホール、施設内に掲示しています。	事業所利用案内に運営理念と介護理念を明示し、家族へ説明すると共に、事業所内要所へ掲示している。管理者は職員に対し、「自分の介護に迷ったら理念に立ち返りましょう」と伝え、支援に活かされるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染対策により活動制限していました。今年5月から対面による運営推進会議を、2カ月おきに開催して町内会長、地域包括支援センター、利用者家族参加による、活動状況報告意見交換をしています。	町内会に加入し、管理者は町内会議に出席している。法人施設の広いホールに幼稚園児が遊戯や合唱の披露に訪れたり、山口神社の秋季例大祭で子ども神輿が来設した際には、利用者全員が感謝の賽銭を納めるなどの交流を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスが5類感染症に令和5年5月8日移行しました。今まで同様に感染対策に留意しながら、地域との交流は運営推進会議、近隣幼稚園園児交流会などから少しずつ始めています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和5年5月から対面による運営推進会議を再開しています。グループホーム青空活動状況報告と話し合いをして、家族からの意見要望については速やかに対応しサービス向上に努めています。	運営推進会議はグループホーム朝風と合同で、参集にて開催し、家族の参加も得ている。活動報告では、様子が具体的に分かるようその時々利用者の言葉を交えて伝えている。議事録に質疑応答内容を記載している。	議事にヒヤリハット・事故報告を載せ、関係者によるモニターを得る事も望ましく、その取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ禍で会議等はありませんが、利用者の介護保険更新や、介護度変更などで担当者と書面、電話連絡で情報交換して協力関係継続しています。	市や区の担当者へは介護保険制度上の書類提出や案件で意見を仰ぎ、適正な運営の維持に向けている。11月、市集団指導にZOOMにて参加している。市保健所医療対策室の出張研修を依頼し、感染症対応力向上研修を受講した。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止会議を3カ月に1回開催、日々ミニカンファレンスで具体的な事例について職員が話し合いをして実践に繋げています。認知症高齢者に対する虐待防止・身体拘束適正化研修に参加学習し職員間で話し合いをしています。玄関の施錠は防犯上の理由で夜間のみ行っています。	身体拘束廃止に関する指針を定め、身体拘束廃止委員会を定期開催すると共に、ミニカンファレンスで利用者個別に具体的な検証を行い、不適切ケアの予防に努めている。これらに係る内部研修を年2回実施している。玄関は夜間帯のみ施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修への参加、職員への周知を行っています。身体拘束廃止会議で議題にして、職員間で意見交換を行っています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前後見人制度研修を受けています。現在制度利用必要の方はいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明は時間をかけて、特に、家族が関心を寄せている事項について、理解納得されているか確認しながら進めています。退去や入院についても分かりやすく説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族の希望要望には、情報を職員間で共有して対応策を話し合い対応しています。必要時家族に連絡したり、2か月おき発行の青空便り、運営推進会議議事録で、意見や要望を伝えてもらいやすいように工夫しています。	茶話会での利用者の何気無い言葉をつなげて、祭り気分が味わえる秋のお楽しみ会を催し、ゲームで本領発揮するなど盛会となった。家族からの要望を受け、施設利用料を銀行引き落としにするなど、出された意見をその都度検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時や、特に変化のあった時はミニカンファレンスで職員の意見が反映されるようにしています。職員全員が情報の共有、統一した関わりが持てて行けるように連絡ノート、個人ノートを活用しています。	職員からは利用者支援や環境整備についての意見や提案が主であり、ミニカンファレンス等で検討し反映させている。連絡ノートや利用者ごとの個別ノートを用いて詳細な情報伝達と共有がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者にピンポイントで職場状況を報告しています。整理整頓、物品収納の工夫をして、職員各々の意見提案により、整い働きやすい職場環境となるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自由に希望研修を受けることができます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福和会グループの朝風さんとは常に連絡情報交換協力体制をとっています。札幌立花病院、隣のケアハウス、専属栄養士とも同様に協力協調できています。区の施設交流の機会があればリモートで参加申し込みしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の認知度、心身の状況に合わせて、家族からの情報を基に、話しかけを多く持ち不安心配が薄らいで行けるように職員は配慮しています。本人の居場所となって行けるように、お話ししやすい雰囲気づくりを心がけています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接時に本人の生活の様子を家族から時間をかけて傾聴しています。要望希望心配不安について、施設で出来ることや成り行きについて説明しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人家族に施設内の見学を実施してもらいます。家族とは少なくとも2回面接して現在の不安や希望を傾聴、情報収集しています。それを基に施設サービスを始めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居後は、永い生活経験を持ち、若い頃は活躍されていた先輩として職員は接しています。見守りの中で野菜の調理準備や、食器の片付け、枕カバー交換、洗濯物たたみなど出来ることを、行っていただきます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	5月から面会制限解除になり、居室面会して自由に会話出来るようになりました。利用者は家族と面会出来る事で安心と笑顔、意欲に繋がっているようです。希望の物品があれば家族に連絡して持参してもらい、手元に届く事で嬉しそうにされています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人的な外出は、受診や慶事以外の実施はしていません。利用者に贈物が届いた時は、職員支援で簡単な手紙を書いてもらい、最近の写真を同封して郵送しています。	居室での面会を再開し和やかな時間が持てるようにし、家族や親族が訪れている。北海道の絵地図を職員が大きく手書きで用意し、利用者間で出身地を示し合い、そこでの暮らしぶりなどの会話につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ゲーム、工作、ジグソーパズルなど、近くの席の方と協力して行う姿や会話がよく見受けられます。レクリエーション時の独唱がいつの間にか合唱になっています。職員の声掛けと関わりや橋渡しも上手にされています。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された家族が立ち寄りお話しされていくことがあります。以前義母が入居していた。今度は実母をお願いしたいと見学相談後契約して、入居されている方もいます。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は個別性に合わせて、話しかける機会を多く持つように心がけています。茶話会、レクリエーション時の何気ない、くつろいだ発言内容からも、その方の希望や意向の気づきとして職員間で共有しています。	職員は、利用者への話しかけや関わりを多く持ち、体調を案じる言葉などから会話を膨らませ、その日、その時の意向等の把握に努めている。毎日のミニカンファレンスの中で気づきを共有し、個別ノートに記し職員間の情報連携ができています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にライフヒストリー、アセスメントシートの作成、以前利用していたサービスからの情報などから把握に努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が様子や行動、健康状態を観察情報交換対応記録、トピックスは個人ノートに記載しています。得意不得意、支援があればできそうな事も含め把握に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員、家族、本人、その他関わっている人達の意見や情報を基に現在の状況にあった介護計画を作成しています。	利用者ごとに個別ノートを作成し日々の気づきを記載している。居室担当職員が3か月ごとに課題整理総括表と評価表に取り組んでいる。サービス担当者会議にて要点討議し本人、家族、医師の意見等も盛り込み、現状に即した介護計画の策定に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた介護記録をしています。必要事項は個人ノートに記載して職員間で共有して介護計画の見直し、新たな計画作成をしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期的な介護計画の見直しや、状況の変化に応じて対応を検討して柔軟な支援をしています。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で地域資源との協働は休止しています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院(札幌立花病院)や、他医療機関も受診できる協力体制を確保しています。職員が日常の健康管理、受診経過把握して、適切な医療が受けられるように支援しています。	全利用者が協力医療機関の札幌立花病院をかかりつけ医としている。通院受診は職員が同行し、歯科の必要時の往診体制もある。看護師を職員配置しており、状態像の見極めにより早期発見等に至り、適切な医療につながった多くの事例がある。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝のカンファレンスや必要緊急時のカンファレンスで情報交換を密にしています。必要時外来受診しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	早期退院を目標に医療機関と情報交換、状況把握に努めています。現在の様子をご家族に連絡しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化予想される状況の場合、主治医、家族、管理者と話し合いを重ね方向性を確認しています。札幌立花病院入院、または他医療機関に転院となります。	重度化した場合における対応について利用契約時に説明し、医療連携体制同意書にて合意を得ている。事業所生活が困難になった場合は、医師による家族への説明や今後の方針を関係者間で話し合っている。家族の希望を受け協力医療機関への移行となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	バイタル測定、身体損傷の有無、感染症等について職員間で情報交換連絡を密にしています。急変、怪我の時は札幌立花病院外来受診と、ご家族に状況経過を連絡しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施、3日分の食料備蓄、隣のケアハウスと協力関係になっています。	令和5年7月は日中想定・火災避難訓練、11月夜間想定・火災・地震の避難訓練を、隣接ケアハウスと合同で実施しており、病院職員、守衛者の協力を得ている。自然災害発生時における業務継続計画は策定中である。	コンセントとプラグの間に埃が溜まると、湿気などが原因で漏電や発火が起こるトラッキング現象となる危険性もある。今後、事業所内を点検し防災対策を強化する意向であるので実行に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者のプライバシー、尊厳を守り、丁寧に分かりやすい言葉かけと対応をしています。	利用者と接する際は目線を合わせ、分かりやすい言葉で優しく伝えている。個人記録書類は適切に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	短く分かりやすい問いかけをして、できるだけ本人に自己決定してもらい、希望にそえるように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせて、朝食時刻、余暇活動、入浴時刻その他について、そえるように調整支援しています。声掛けして本人の希望を優先しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の衣替えや、理容美容室申し込みなど、身だしなみが整って行くように支援しています。衣類が古くなったり、ズボンのサイズが合わなくなった時はご家族に連絡したり、職員が選んで購入して下さることもあります。		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにしている方は早めに自由にテーブル席に付いて、職員の食事準備風景を眺めています。お手伝いは食事前後のテーブル拭きや、食器の後片付けに協力してもらっています。	グループホーム専属栄養士が献立を立て提供している。週1回、麺の日、パンの日を設け変化を取り入れている。乳製品は複数の種類から選ぶことができ、行事食や季節の食を楽しむことができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日6回の飲水提供、食事飲水量のチェック、食事摂取状況の観察をしています。各人に合わせた食事形態にして、嚥下状況を観察して対応しています。月初め体重測定、毎月栄養加算会議、献立会議実施相談しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア誘導、介助必要の方の支援実施しています。夕食後は義歯ボリデント洗浄しています。歯や義歯の具合が良くない場合は、歯科往診依頼して居室で診療受けるように連絡調整しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便チェック表より個々の排泄パターンを把握して声掛けや、トイレに誘導して排泄の失敗が少なくなるように支援しています。	排泄チェック表にて水分摂取量や排泄パターンを把握し、事前誘導にて、日中は全員がトイレでの排泄が可能となっている。夜間も利用者の状況に応じ、適切な排泄用品を使用し支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日本体操の実施と水分補給。排尿排便チェック表で便秘、正常、下痢を把握して早めの処置と下剤内服コントロールしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	当日の心身状況を把握して入浴を楽しめるように対応しています。シャワー浴のみの希望や、浴槽入浴希望にそい室温、水温に配慮して支援しています。	週2回の入浴を基本とし、週4回の入浴日を午後に設けている。本人の気持ちを尊重し支援している。ヒートショック対策として24時間暖房機を2台稼働させている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣の違いから入床時刻は、各人違っていません。室温、照明、音など安心して眠れる環境に整えています。夜間眠れていない時は職員が話し相手になり対応して、安心してもらうこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	札幌立花病院外来処方薬内服しています。誤薬のないように3回確認に努めています。飲み込みにくい場合は2～3回に分けて内服しています。職員間で情報交換、症状変化の確認を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活者として各人の持てる能力に応じた役割分担をして実行してもらっています。主婦経験があり、調理の下準備や、洗濯物たたみ、レクリエーション時の片付けなど手際よく、見守りの中で行っていただいています		

グループホーム青空

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出はしていません。 冬季以外、お天気の良い日は毎日札幌立花病院中庭の散歩に、職員利用者全員で出かけています。	季節のよい時期は敷地内の花壇や木々、畑のある遊歩道が整備された中庭の散歩を楽しんでいる。外出レクリエーションとして今年度は2回、利用者全員と家族が参加し百合が原公園やレストランで交流を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族からお小遣いとして、お金を預かります。個々に必要時に家族と相談して使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望のある時は対応しています。 家族、知人からのお手紙は手元に置いて、何時でも見られるよう保管してもらっています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	やわらかな暖色系の壁色、落ち着いた緑色のカーテンで統一され、冷暖房完備になっています。 広い窓から中庭の自然風景が眺められます。ホールの壁面は職員、利用者で制作した壁飾りを掲示して楽しんでいただいています。お誕生日会や催しの写真はパソコンでプリントして飾っています。	季節の移り変わりが楽しめる大きな窓や、壁には利用者と一緒制作した季節飾りや作品、観葉植物が置かれている。また一週間ごとのメニュー表を柱に貼り、利用者の食事の楽しみにもなっている。車椅子や歩行器の動線が確保され、廊下にはソファや椅子が配置されている。冷暖房が完備され過ごしやすい環境になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やレクリエーション活動のテーブル席は座る場所が決まっています、時々席替えて交流を深めています。夕食後独りの時間を持たたい方は居室に入り、団欒を好む方は就寝前までホールで過ごされています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が普段に使い慣れ親しんでいたものがある時は家族と相談して持って来てもらっています。テレビ、タンス、テーブル等を、安全に使用しやすく配置しています。利用者の作品の掲示や、家族の写真などを自由に飾っています。	居室の間口は広く、車椅子や歩行器での移動がしやすい造りである。介護用ベッドとナースコール、ロスナイが備え付けられ、使い慣れた家具や調度品、壁飾りや家族写真のほか趣味のものが飾られている。掃除専門職員が清掃を行い気持ちよく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はフラットでドアは軽い引き戸です。廊下、トイレ、浴室に手摺がついていて、安全に移動出来るようになっています。廊下の幅、トイレ室内も広く、歩行器や車椅子の方が使いやすくなっています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム青空

作成日：令和 5年 12月 21日

市町村受理日：令和 5年 12月 25日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議において議事にヒヤリハット・事故報告を載せ、関係者によるモニターを得て今後の介護サービス向上に活かしていく必要がある	運営推進会議で利用者の生活の中で起こりやすい危険、事故について周知し未然に防ぐ工夫、方法を相談できる	①運営推進会議において、インシデント、事故報告書を議題にして家族、地域包括支援センター、町内会代表者、職員で話し合う ②何か工夫する事はないか、他に対応策はなかったか相談していくことで高齢者、認知症についての理解を深めていく	2か月
2	35	コンセントとプラグの間に埃が溜まると、湿気などが原因で漏電や発火が起こるトラッキング現象になる危険性もある。今後事業所内を点検し防災対策を強化する必要がある。	電気設備、電気に関する物品を定期的に点検してトラッキング現象を発生しない	①月はじめコンセントの穴に掃除機(細いノズル)使い埃を吸い取る。乾いた布で乾拭きする ②電気コードの耐用年数は5年目安とされている。古いコードの使用をしない ③タコ足配線をしない	1ヶ月
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。